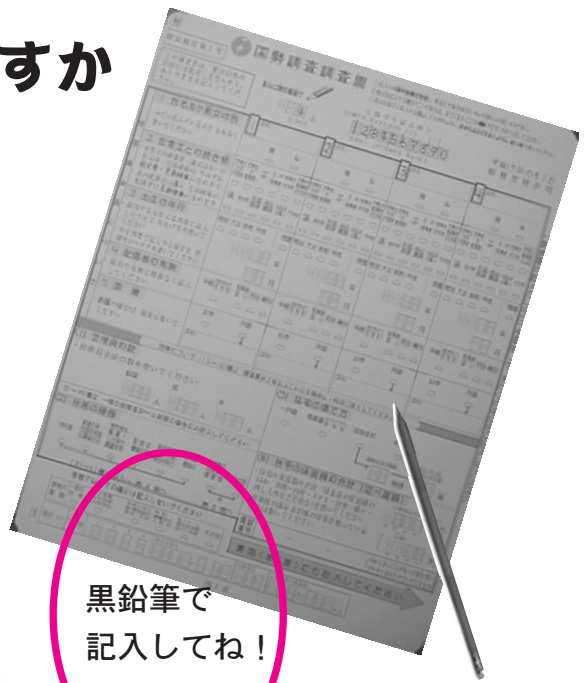


国勢調査票の記入はお済みですか

- 10月1日現在で2005年国勢調査が一齐に行われています。
- 日本に住んでいるすべての人が対象であり、回答が義務付けられています。
- 所定の事項に正しく回答をお願いします。
- 国勢調査員が回収に伺いますので、提出してください。
- 国勢調査員をはじめとする調査関係者には守秘義務があり、調査内容の秘密は保護されます。
- 調査票は外部の人の目に触れないように厳重に保管され、集計後はすべて溶かして再生紙として生まれ変わります。
- 調査票が届いていないときや、わからないことがある場合には、産業観光課商工振興担当までご連絡ください。



黒鉛筆で
記入してね！

阪神淡路大震災、新潟中越地震など度重なる大地震は、私たちの生活に大きな衝撃を与えました。地震とは恐ろしいものです。

昔の人は『地震・雷・火事・親父』と子どもたちを戒めました。三つは自然の脅威です。しかし、何故そこに『親父』が入っているのでしょうか。それは、子どもにとって父親は絶対的な権力を持ち、有無を言わさぬ存在だったからでしょう。

さて、今の『親父』はどうでしょう。家の中で誰が偉い、誰が怖いということもなく、それぞれがその役割を果たし、楽しく暮らしているのではないのでしょうか。家庭は社会の縮図といわれます。礼儀作法に始まり、言葉遣い、善悪の判断など、人との関わり方を学ぶ重要な社会なのです。

気になった光景を二つ挙げ、考えてみましょう。一つは、レストランで食事をしている



親子。親は親でお喋りしながら、子どもはゲーム機を片手に食事。そこにはコミュニケーションはありません。せつかくの親子での食事も...。

もう一つは、病院の待合室。大声をあげながら待合室の中を走り回ったり、読んだ本をそのまま出しっぱなしにしている子ども。それを何も注意しない親。モラルを教えるのも親の役目なのです。



高度経済成長の中で育った私たちは、物があって当たり前に、自分の思い通りに生きてきました。親として子どもに

伝え、教えていくことが見えていないのかも知れません。溢れる情報に流され、親の価値観も多様というより揺らいできています。

世の中で起こっているたくさんさんの事件。特に青少年の問題に関わるものの多くは家庭に何らかの原因があると云われています。家庭という生活基盤が壊れ始め、さらに私たちを取り巻く自然や地域など、子どもの健全な育成を支えている土台も大きく崩れかけています。親も子どもも大変な時代の流れに巻き込まれていきます。

だからこそ、もう一度家庭とは何か、家族とは何なのか考え直してみたいものです。

子どもは親の背中を見て育ちます。親は子どものため家族のために一生懸命働き、より豊かな生活を求めます。愛情に包まれ心が満たされた家庭の子どもは、たとえ問題を起こしたとしても必ず親を求め帰ってきます。

「怖いものは何もない。誰も怖くない」では、秩序は保たれません。子どもに遠慮なんかありません。我が子を信じて懐深く導くことこそが親の役目なのではないでしょうか。

毎月第1日曜日は **『家庭の日』**

毎月第3日曜日は **『青少年を育む日』** 青少年育成都留市民会議編集委員